

平成27年度 徳島県立名西高等学校経営計画

1 学校教育目標

- 1 本校の歴史と伝統を重んじ、知・徳・体の調和がとれた誠実で民主的・創造的な実践力のある心身共にたくましい人間を育成する。
- 2 生徒一人ひとりの個性や能力を最大限に伸ばすとともに、個人の尊厳と基本的人権を尊重し、民主社会の実現に貢献できる人間を育成する。
- 3 我が国の文化と伝統を尊重するとともに、平和な国際社会づくりに貢献できる人材を育成する。

2 学校経営計画中期的目標

- 1 真に自分を大切にする教育の徹底により、正しい人権感覚を身につけるとともに、自己実現への意欲や態度を養う。
- 2 芸術科の充実及び国際理解教育の推進を図り、文化の創造と社会の発展に貢献できる人材を育成する。

3 本年度重点目標

- ① 望ましい人生観・職業観の育成と進路実現
- ② 豊かな人間性を育てる心の教育の推進
- ③ 基本的生活習慣の確立と社会人としての資質の育成
- ④ 新しい時代に対応した学習活動の活性化と総合的な学力の向上
- ⑤ 文化芸術活動における地域への積極的な創造発信
- ⑥ 地域社会との連携と開かれた学校づくりの推進
- ⑦ ホームルーム活動と部活動の活性化
- ⑧ 防災・安全教育の徹底と環境教育の推進

重点課題	重点目標	主担当	自己評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策		
			評価指標と活動計画	評価				
希望の進路をかなえさせる	①望ましい人生観・職業観の育成と進路実現	進路指導課	評価指標	① 生徒に進路情報を随時提供することができたか。	評価指標の達成度	総合評価 (評定) B (所見) 生徒の努力と担任や就職担当の粘り強い指導と対応の結果、多くの第1希望での内定を得ることができた。また、マッチングフェアを利用して内定を得た生徒も数名おり、各種機関を有効に利用できた。しかし、採用状況は厳しい状態が続いているので採用試験に合格するだけの基礎学力の向上が課題である。	特になし	○地道な職場開拓を継続させ、生徒の希望に沿った就職が実現できるよう努力する。 ○2年生から就職ガイダンスに参加させるなど、就職に対する意識づけを早くから行う。 ○就職対応補習を充実させ、基礎学力の向上へ向けた地道な取り組みを各教科と連携して進めていく。
			② 生徒の進路希望に応じた職場の確保や開拓ができたか。	② ほぼできた。				
			③ 希望が達成できるように各種機関を利用し支援することができたか。	③ マッチングフェアでハローワークと連携をとりながら希望者との面談や相談を繰り返し行うなど、各種機関の活用を行った。				
			④ 最終進路先に満足する生徒の割合が90%以上、本校の進路指導に満足する生徒の割合が90%以上であったか。	④ 最終進路先に満足する生徒の割合が95%、進路指導に満足する生徒の割合は90%で、いずれも目標を達成した。しかし、進路指導に満足する生徒の割合は減少した。				
		進路指導課	活動計画	① 生徒に進路情報を随時提供する。 (「木鐸」年1回、職場体験やオープンキャンパス等各種案内随時)	活動計画の実施状況	① 「木鐸」や進路ニュースの発行を通して本校独自の情報を伝えた。また、掲示や配布により様々な進路情報を提供した。業者による校内での資料頒布会を行った。		
			② 職場訪問を20社以上行う。 職場開拓を5社以上行う。	② 職場訪問を20社行った。景気の回復や、前年度の就職生との関係から5社増やせた。				
			③ マッチングフェアを利用し、ハローワークと連携を深め、未決定者への支援を行う。	③ 11月実施のマッチングフェアで、9月に内定を得られなかった生徒が内定した。				
			④ 生徒の進路相談に随時応じ、丁寧な進路指導を行う。	④ 進路指導室や就職指導室を活用して、できるだけじっくり話を聞きながら進路相談に応じた。				
	進路指導課 3学年共通	評価指標	⑤ 進路に関する講演会や学年別進路集会を通して、学力向上への意欲や望ましい職業観の確立を図ることができたか。	評価指標の達成度	⑤ 2月に実施した進路希望調査において進路希望が未定である者は1年生で0%、2年生で0.7%と少なかったため、講演会や集会での一定の成果が現れていると考えられる。	総合評価 (評定) B (所見) どの活動においても生徒が進路を自分のものとして考えていたため効果はあったと思う。	○今年は3年生における分野別説明会を実施した。意義はあったと思われるので次年度以降も継続させたい。 また、キャリア教育の視点を意識した講演会や集会の内容を考えていきたい。	
		進路指導課 3学年共通	活動計画	⑤ 講演会や進路集会を各学年2回以上開催する。	活動計画の実施状況			⑤ 進路講演会は1、2年生1回ずつ実施。全学年で職業別、学問分野別進路説明会を実施。3年生は進路集会を2回実施した。また、卒業生を招く進路座談会を開催した。

重点課題	重点目標	主担当	自己評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方針
			評価指標と活動計画	評価		
生徒の自主的な活動のサポート体制をさらに強化する	②豊かな人間性を育てる心の教育の推進	特別活動課	評価指標 ⑥ 全校生に趣旨の徹底をはかるとともに自発的にとりくむことができたか。	評価指標の達成度 ⑥ 全校生に募金活動の趣旨の徹底をはかることはできたが、自発的にとりくむまではできなかった。	総合評価 (評定) B	特になし
		特別活動課	活動計画 ⑥ 生徒会が中心となり、自主的に募金活動等のボランティア活動を実施する。	活動計画の実施状況 ⑥ 生徒会役員が中心となり、全校集会時に募金を呼びかけたり、各HRに募金箱を準備したりして、NHK歳末たすけあい・海外たすけあい等の募金活動を実施した。		
	図書課 各学年	評価指標 ⑦ 全教職員の理解を得られるように、「朝の読書」の主旨を知らせ、協力を得られたか。	評価指標の達成度 ⑦ 職員会議で、協力と指導の依頼を行った。平成27年度学校評価アンケートでは65%の職員が生徒と一緒に「朝の読書」をしていると回答した。	総合評価 (評定) B	(所見) 学級文庫の利用だけでなく、図書館の本を借りてきたり、お気に入りの本を持参したりするなど「朝の読書」の実施は定着してきているが、普段の読書時間の増加にまでは至っていない。	
		⑧ アンケートを実施して結果を周知し、改善を図ったか。	⑧ 名高ライブラリーや校誌『藤波』に図書館の利用状況や貸出し冊数調査の結果を掲載することで周知を図った。			
	図書課 各学年	活動計画 ⑦ 「朝の読書」を充実させるため、原則として全員の教職員が指導に当たり、生徒も教職員も読書を楽しむ。また楽しめていない生徒への関わりを深めてもらう。	活動計画の実施状況 ⑦ 担任・副担任の協力を得て、3年生は毎日、1・2年生は月・火曜日に実施することができた。	総合評価 (評定) B	(所見) 学級文庫の利用だけでなく、図書館の本を借りてきたり、お気に入りの本を持参したりするなど「朝の読書」の実施は定着してきているが、普段の読書時間の増加にまでは至っていない。	
		⑧ 「読書の生活化プロジェクトⅣ」の取り組みとして、年2回、家庭での読書時間調査を実施する。結果を周知し、人生に潤いをもたらす読書活動を定着させていく。	⑧ 「読書の生活化プロジェクト」の実施時期の変更により、読書時間調査は年1回になったが、「朝の読書」やクラス読書会の時間を設定することができた。			

重点課題	重点目標	主担当	自己評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策
			評価指標と活動計画	評価		
計画的・効果的な情操教育を展開する	②豊かな人間性を育てる心の教育の推進	芸術科	<p>評価指標</p> <p>⑨ 校内展覧会・演奏会などを通して豊かな感性の伸長を図り、情操教育を展開することができたか。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>⑨ 校内展覧会・演奏会を計画通り実施することができた。</p>	総合評価 (評定) B	健康相談については非常に重要なものだと考える。希望者がいないということもあるのだろうが、県下的に糖尿病患者が多いことも併せて、健康相談の活用をしっかり図ってもらいたい。 朝食の摂取率も気になるが、概ね良好だということなので、食生活の改善から肥満度の改善にも取り組んでいってもらいたい。
		芸術科	<p>活動計画</p> <p>⑨ 県内唯一の芸術科を持つ学校としてその有利性を発揮し、美術・書道の常時展示や文化祭等での演奏などを積極的に行う。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>⑨ 芸術科を持つ学校としてその有利性を発揮し、美術・書道の常時展示や文化祭等での演奏などを積極的に行うことができた。</p>		
		保健厚生課	<p>評価指標</p> <p>⑩ 保健室の機能を生かし、養護教諭、サポートセンターと連携した相談支援活動を行うことができたか。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>⑩ 担任と連携をしながら、生徒の相談支援活動に努めた。</p>	総合評価 (評定) B	
		保健厚生課	<p>活動計画</p> <p>⑩ 生徒の心の悩みに気づき、担任、保護者、養護教諭、サポートセンターとの連携を図る。必要な場合は専門の相談機関等につなげる。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>⑩ 担任や関係教職員と連携し、生徒の心身の健康問題の早期発見や対応に努めた。必要な場合は、学校医や専門機関と連携し支援を行った。</p>		
		保健厚生課	<p>評価指標</p> <p>⑪ 年間3回健康相談を実施し、生徒の健康の保持増進に努めることができたか。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>⑪ 学期ごとの健康相談活動の実施であるが、希望者がいない学期もあった。相談件数は3件であった。</p>	総合評価 (評定) B	
		保健厚生課	<p>活動計画</p> <p>⑪ 年間3回、学期ごとに1回、学校医による健康相談を実施する。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>⑪ 希望者がいない学期もあり年1回の実施となった。</p>		

重点課題	重点目標	主担当	自己評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策	
			評価指標と活動計画	評価			
基本的な生活習慣の確立と社会人としての資質の育成	③基本的な生活習慣の確立と社会人としての資質の育成	生徒指導課 各学年	評価指標	評価指標の達成度	総合評価 (評定) A (所見) 様々な取り組みの効果もあり、昨年度より特別指導件数や遅刻数が減少するなど、一定の成果は得られた。またスマホの指導についても、スマホマナーアップ運動を生徒会・PTAと連携して推進するなど独自の取組を実施することができた。	特になし	○基本的な生活習慣は、人間の態度や行動の基礎となるものであり、生徒にとって社会的な自立や自己実現のために大変重要であるという認識のもと、さまざまな指導の徹底を図っていききたい。特にスマホについての指導を充実させ、生徒がネット依存にならないように努めたい。
			① 遅刻数の増減を確認し、改善するよう適切に指導できたか。	① 毎日の遅刻数を記録し、増減に合わせて適切に指導することができ、遅刻数を減少させることができた。			
			② スマホマナーアップ運動を展開し、スマホによるトラブルを減少させることができたか。	② スマホマナーアップ運動を充実させ、大きなスマホによるトラブルはなかった。			
			③ 交通マナーが向上し、交通事故を防ぐことができたか。	③ 様々な取組の効果で、交通マナーが向上し、大きな事故もなかった。			
		生徒指導課 各学年	活動計画	活動計画の実施状況			
			① 遅刻した生徒に対して、遅刻カードを記入させ、遅刻数を確認させる。また各学期で10回以上遅刻した生徒に対して遅刻指導を行う。	① 生徒に遅刻カードを記入させ、捺印の際に遅刻数や理由を確認し、個に応じた指導を実施した。また、遅刻ゼロの日の設定や、定期考査時5分前登校などの取組も実施した。			
			② クリアファイルの配布やポスター掲示など、スマホマナーアップ運動を充実させる。また、生徒会やPTAと連携を図る。	② クリアファイルの配布やポスター掲示をして、スマホマナーアップ運動の浸透に努めた。また、生徒会やPTAも総会で宣言を発表し、運動の推進が図れた。			
			③ 交通事故の防止と交通マナーの向上に向けた指導を行う。(街頭登校指導(月1回)・交通安全キャンペーン(年2回)・交通安全講話(年2回)・自動車免許取得のための講習会(年2回)の実施。	③ 交通マナーアップのため、石井署と連携を図り、交通安全講演会の開催、交通安全街頭キャンペーン(無事カエル配布)などを実施した。また登校時の街頭指導は毎日実施し、毎月の学校安全の日にも通学指導を実施した。3年生に対しては、保護者に来校いただき、自動車免許取得説明会を開催した。			
④ 社会のルールや法律、学校の規則に対する規範意識の高揚を図る。全校集会やホームルーム活動を中心に、機会あるごとにルールを守る大切さを理解させる。	④ 全校集会時に、毎回必ず、いじめや携帯電話についてのトラブル等について全体指導を実施した。また様々な問題について教員が共通理解を図り、ホームルームでも指導を実施した。						

重点課題	重点目標	主担当	自己評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策							
			評価指標と活動計画	評価									
基本的な生活習慣の確立を目指す	③基本的な生活習慣の確立と社会人としての資質の育成	保健厚生課	評価指標	⑤ 内科検診、結核検診、心電図検査の全員受診、二次検査対象者の全員受診を完了することができたか。	評価指標の達成度	⑤ 内科検診、結核検診、心電図検査の全員受診と二次検査対象者の全員受診を完了することができた。	総合評価 (評定) B	特になし	○今後も各講演会やほけんだよりを通して、健康課題についての啓発活動に努めていきたい。徳島県の課題でもある肥満二次検診の受診が本校の今後の課題である。関係の先生方と連携し、受診の周知徹底に努めていきたい。				
			活動計画	⑥ ほけんだよりを毎月1回以上は発行することができたか。健康や性に関する講演会を年1回以上実施することができたか。	活動計画の実施状況	⑥ ほけんだよりを毎月発行し、健康課題について啓発できた。第1学年を対象に、10/7に性教育講演会、12/15に歯科講演会を実施した。							
		保健厚生課	評価指標	⑤ 健康診断の結果、二次検査が必要な生徒に対して受診指示を周知徹底する。	評価指標の達成度	⑤ 二次検診が必要な生徒の受診指示を徹底することに努めた。	総合評価 (評定) A						
			活動計画	⑥ ほけんだより、文化祭の展示などの啓発活動を実施する。健康や性に関する講演会を実施し、生徒の意識の向上と理解を深める。	活動計画の実施状況	⑥ 文化祭では、大塚製薬管理栄養士による生活習慣に関するセミナーを実施。性教育講演会では「性感染症」、歯科講演会では、「インフルエンザと口腔ケア」の講演を実施し、生徒の健康への意識の向上と理解を深めることができた。							
		特別活動課	評価指標	⑦ 毎週1回以上実施できたか。	評価指標の達成度	⑦ 毎週1回以上実施できた。	(所見) 生徒会だけでなく、委員会活動や部活動にもひろがってきた。						
		特別活動課	活動計画	⑦ 生徒会役員が中心となり、登校時に「あいさつ運動」を実施する。	活動計画の実施状況	⑦ 生徒会役員が、火・水・金曜日の登校時に校門前で朝のあいさつ運動を実施した。生活委員会や野球部もあいさつ運動を実施した。							
		7											

重点課題	重点目標	主担当	自己評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策
			評価指標と活動計画	評価		
基礎学力の向上を目指す	④新しい時代に対応した学習活動の活性化と総合的な学力の向上	教務課 進路指導課	評価指標	評価指標の達成度	総合評価 (評定) B (所見) 教務課において、例年のように欠点取得者特別補講や確認考査考査前の学習計画表などを配付し、学習への動機付けを実施した。 しかし、特別補講に欠席したり、課題の不備で特別補講を受けられない生徒も若干いた。今後とも、進路課と協力し、学力の向上に努めたい。 STが基礎学力の向上と達成感の実感につながってはいないもの、学習への取り組み方や意欲のばらつきが個人間で見られる。これはSTだけでなく普通の授業にも当てはまる。生徒の学習への意識は高いので、学習をどう実行させるか、工夫していく必要がある。	以前より、平均家庭学習時間2時間以上の者が増え、かつゼロ時間の者が減っており、学校が落ち着いていることがよくわかる。 中にはより長時間机に向かっている者もいるの平均2時間であり、日ごろから3時間、4時間と家庭学習に取り組む生徒を増やしてってもらいたい。 ○STの成果を検証し、教材や問題の改善を図る。 ○高校での学習が将来何につながるのかを生徒に考えさせることにより学習意欲を喚起し主体的に授業やSTに取り組む生徒を増やす。
			① 定期考査期間中の平均家庭学習時間2時間以上の者が各学年ともに30%以上、かつゼロ時間の者が各学年ともにゼロであったか。	① 2時間以上の学習時間実施者は、第1学期中間考査では、1年生32%、2年生26%、3年生45%。第1学期期末考査では、1年生29%、2年生30%、3年生44%。第2学期中間考査では、1年生29%、2年生36%、3年生41%。第2学期期末考査では、1年生35%、2年生36%、3年生39%。全学年平均では35%であった。学習時間0時間の割合は、1学期中間で1年生1%、2年生7%、3年生1%。1学期期末で1年生1%、2年生7%、3年生5%。2学期中間で1年生4%、2年生7%、3年生3%。2学期期末で1年生6%、2年生3%、3年生1%。全体平均では4%であった。		
			② 欠点者数の割合が、前学期あるいは前年度よりも減少したか。	② 欠点取得者数について1学期は、前年度比較で半減した。2学期も前年度比較で減少した。本年度は、1学期より2学期が増加した。		
		③ 成績不振者への対応ができたか。	③ 1・2学期においては、欠点取得者に対し課題を出すとともに特別補習や確認考査を実施しその解消に努めた。			
		教務課	④ 授業時数確保に努める。	④ 出張、年休による授業振り替え率は90%以上であり、極力自習の時間を減らした。また、授業カットも減少させ、授業時間確保に努めた。		
		進路指導課	⑤ ST(スタディ・トルマ)において、1・2年国語では確認テストの平均得点率7割以上の者が70%以上であったか。1・2年数学では各問の正答率が80%以上であったか。英語は平均得点率6割以上の者が30%以上であったか。	⑤ 国語と英語ではほぼ目標を達成できたが、数学では2学年とも達成できなかった。各教科とも問題の難易度や内容、課題への生徒の取り組み方などを検証し、次年度へつなげていきたい。		
			⑥ 家庭学習時間を確保させるために、各教科でSTの実施曜日にあわせた家庭での課題を計画的に実施する。	⑥ STの実施にあわせてあらかじめ課題プリントを配布するなど、各教科において家庭学習時間確保への取り組みがなされた。		
			活動計画	活動計画の実施状況		
		教務課 進路指導課	① 学習時間調査を実施し、生徒に対する意識づけを行い家庭学習時間ゼロをなくす。	① 考査時間割発表から学習時間調査を実施し、計画的に学習ができるように学習時間表を配布した。また、担任の先生方にもチェックをお願いし、状況把握に努めていただいた。		
		② 欠点を取らないよう、授業やホームルーム、集会等で学習意欲を喚起させ、授業態度や提出物等の指導をより徹底する。	② 全校集会などでは、進路指導主事や教務主任から学習法や単位修得や未修得について等について話す機会を持った。また、HR担任や教科担任に対し、提出物の徹底や授業態度の指導などを徹底していただいた。			
		③ 定期考査における成績不振者には長期休業中に補講や特別補講、復習課題を課し、学力補充に努めさせる。	③ 欠点取得者には、長期休業中に課題や特別補講、確認考査を実施しその解消に努めた。HR担任や教科担任の声かけなどにより多くのものが出席した。			
		教務課	④ 行事などの精選を図るとともに、自習を減らす。	④ 振り替えによる自習の時間は10%を切り、高い数字で授業を実施した。		
進路指導課	⑤ 基礎学力向上を図るためのST(国語、数学、英語)を年間計画に位置づける。	⑤ テスト期間等を除き各教科毎週1回ずつ実施し、国語、英語は17回、数学は18回実施した。				
	⑥ 1, 2年生におけるSTの課題、全学年における各教科の授業の課題を計画的、継続的に実施する。	⑥ STの課題はSTの実施日にあわせて、授業補充の課題は週末を中心に課し、各教科における対応の中で提出物をこまめにチェックするなどして家庭学習の定着と基礎学力の向上を目指した。				

重点課題	重点目標	主担当	自己評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策	
			評価指標と活動計画	評価			
読解力の向上による学力向上を目指す	④新しい時代に対応した学習活動の活性化と総合的な学力の向上	図書課	評価指標	評価指標の達成度	総合評価 (評定) B (所見) 全校読書会は、昨年と同時期に行うことが出来たが、二学期後半の行事の実施時期が遅れたため、図書館の貸し出し冊数等に影響があったと思われる。「名高ライブラリー」紹介された新着図書や、お薦め本を目当てに図書館に来る生徒もあり、広報の効果が見られた。	特になし	
			⑦ 全校読書会や読み聞かせの会への参加者が前年度より増加したか。	⑦ 全校読書会の参加者は昨年と同数程度であった。読み聞かせの会は実施できていない。			
			⑧ 家庭での平均読書時間10分以上の者が30%以上になったか。	⑧ 家庭で読書をしている生徒は、保護者へのアンケートで40.9%であった。			
			⑨ 「名高ライブラリー」を定期的に発行し、広報を活発にしたか。	⑨ 「名高ライブラリー」を定期的に発行することができた。			
		図書課 国語科	⑩ 図書館の利用や本の貸出が増えたか。	⑩ 4月～12月の貸出し冊数は1,572冊、一日平均入館者は37.2名であった。			
			⑪ 読書やステップアップトレーニングを通して、語彙力や国語常識が身についてきたか。	⑪ ステップアップトレーニングで、テキストを利用し、各自のペースで学習を進めることで徐々に知識の定着につながってきている。			
		図書課	活動計画	活動計画の実施状況			特になし
			⑦ 全校読書会や読み聞かせの会の実施案内を周知して、積極的な参加を促す。参加した生徒が次回も参加したいと思えるような企画にする。	⑦ 掲示物等で案内をするとともに、図書委員による広報活動を行った。参加者は、各自の感想や意見を発表し和やかな雰囲気の中で実施することができた。			
			⑧ 「朝の読書」の取り組みを十分に生かし、家庭での読書時間を増やしていく。学級文庫の活用や図書室の本をテーマ別に紹介して、読書へ誘う。	⑧ 図書館では、定期的にテーマを決めて図書展示を行うなど、生徒が興味関心を持つことが出来るように工夫をした。			
			⑨ 広報紙等により、読書の意義や各分野の推薦図書を知らせ、幅広い本を紹介していく。	⑨ 名高ライブラリーに、生徒によるお薦め本の紹介や生徒による新着図書の紹介を掲載した。			
		図書課	⑩ 図書館の利用や図書館の本の貸出を推進する。	⑩ 授業や調べ学習の資料提供等により図書館利用の機会を増やし、本の貸し出し冊数の増加を図った。			
			⑪ 読書やステップアップトレーニングを通して、語彙力や国語常識を身につけ、読解力へつなげていく。	⑪ ステップアップトレーニングで、身につけた語彙力等を生かし、読書感想文コンクールや新聞感想文コンクールに応募することができた。			

重点課題	重点目標	主担当	自己評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策	
			評価指標と活動計画	評価			
さらなる学力向上を目指す	④新しい時代に対応した学習活動の活性化と総合的な学力の向上	3学年共通 総合学習科	評価指標	⑫ 面談を実施し、個別学習指導ができたか。	⑫ 学期ごとに計画された面談に加え、成績通知時や機会を捉えて行う面談など、各生徒に対して平均して5回は行えた。	総合評価 (評定) A (所見) 国際理解教育講演会を通して、異文化理解を考えるきっかけになった。小論文講演会ではこれからの自分の学習活動の在り方やもの考え方・捉え方について考えるよい機会となった。また、進路についての面談等を計画・実施することによって、生徒の在り方生き方に有益な時間となった。	○生徒の実態や学校の特色を踏まえて、全体計画を見直し、体系的な取り組みを行うことが必要である。 ○講演会や小論文指導に限らず、生徒が異文化に触れる機会を積極的に設け、様々な角度から国際理解教育を実施するようにする。 ○より学びを深めるため、講演会の実施時期や回数について検討する。 総合学習コーディネーターと学年担当の教員が連携し、より効果的な指導計画を検討する。
			⑬ 効果的にテキストを活用し、計画どおりに実施できたか。	⑬ ほぼ年度当初の計画に沿って実施することができた。各学年間の連携をはかり、さらに計画を見直す必要がある			
			⑭ 生徒を対象とした小論文講演会を実施する。	⑭ 各学年1回の小論文講演会を企画し、実施することができた。段階を踏んだ指導につながった。			
		活動計画	⑫ 全生徒と4回以上学習についての面談をする。	⑫ クラス担任や教科担任により、学習内容の理解度や目標の達成度などに関して、密度の濃い面談、面接が行われた。			
		総合学習科	⑬ 小論文学習において国際理解をテーマとする時間を設定する。	⑬ 国際理解だけを取り上げた小論文学習の機会を設けることはできなかった。様々な社会問題について考える時間に触れるにとどまった。			
		⑭ 国際理解・国際交流の体験・学習を小論文の形で表現できる力をつける。	⑭ 国際理解教育講演会における感想文を提出させたが、小論文の形にまでつなげることができなかった。体験的な学習を表現活動につなげることが課題である。				
	英語科	評価指標	⑮ 授業評価アンケートを実施して評価する。	⑮ 各学期末ごとにアンケートを実施し、それをもとに授業改善につなげた。	総合評価 (評定) B (所見) 昨年度より始めたSTについては、今年度も継続して実施することで、生徒の学習習慣の定着や意欲の向上に役立てた。また英検I B Aを活用し、データとして科学的に生徒の英語力を把握・分析することができた。ALTによる昼休みの英語の放送も継続することで、英語学習への動機づけに貢献している。	英語教育はグローバル人材育成という大きなうねりの中で中核的な役割を果たしており、生徒がいかに社会に出て役立つ英語力を身につけさせるか、授業改善が日々求められている。昨年度から始まったSTを継続させることができ、生徒たちにグローバル時代に対応する確かな英語力を身につけさせたい。	
		⑯ STテストや週末課題が計画どおり実施でき、生徒の英語力が向上したか。	⑯ STテストや週末課題は計画どおり実施できた。生徒の英語の基礎力の伸長につながった。				
		⑰ 英検等の資格・検定試験の受験者数・合格者数は増えたか。英語セミナーなどへの参加者は増えたか。	⑰ 英検の受験者数は増加傾向にあるが、合格者数はほぼ例年並であった。英語セミナーの参加者は、やや少なかった。				
	英語科	活動計画	⑮ 英検I B Aを実施し、生徒の英語力の調査・分析を行い、生徒の英語学習へのモチベーションの向上、教員の指導改善を図る。	⑮ 英検I B Aを活用することで、科学的かつ合理的に生徒の英語力の分析が行われ、データを元に教員間の共有が図れ、授業改善等に役立った。			
		⑯ 「ステップアップトレーニング」の授業・週末課題・確認テストのサイクルを円滑に実施し、英語の基礎力を高める。	⑯ 「STトレーニング」のサイクルは生徒に定着しつつあるが、確認テストに向けての生徒の意識や学習度には個人差が大きく見られた。				
		⑰ 英検1次試験のサブ会場を本校で実施し、受験機会を増やす。各種資格・検定試験や英語セミナーの情報提供を行う。	⑰ 英検受験の勧めを試みたが、サブ会場を実施できる程の人数には満たなかった。各種情報の提供は例年どおりに実施できた。				

重点課題	重点目標	主担当	自己評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策	
			評価指標と活動計画	評価			
国際理解教育の推進を続ける	④新しい時代に対応した学習活動の活性化と総合的な学力の向上	国際課 英語科	評価指標	⑱ 外国の文化・慣習等に興味・関心を持ち、国際交流への意識は高まったか。	⑱ 1年間の長期留学生を1名受け入れ、留学生を通して、積極的な交流ができていた。	総合評価 (評定) B (所見) 昨年度からの引き継ぎ事項を踏まえ、ドイツ研修旅行の実施実現とともに、県の「グローバルスタンダード人材育成事業」にも応募し、生徒の経済的負担を軽減することができた。また、留学生の受け入れや講演会は引き続き実施し、生徒の国際理解をさらに深める取組を継続して行えた。	ドイツ研修旅行が企画に留まらず実施できることになったのはよかった。姉妹校との交流をしっかりと果たしてもらいたい。
			⑲ 生徒の国際理解は深まったか。	⑲ 留学生との交流、ALTによる校内放送や「国際理解教育講演会」を通し、生徒の国際理解に対する啓発が行えた。			
			⑳ ドイツ研修旅行の事前研修が円滑にすすみ、旅行が充実したものになったか。	⑳ 本年度は昨年度企画のとおり研修旅行を実施することが可能になり、実施に向けて着実に事前研修を行えた。			
	活動計画	⑱ 海外姉妹校との交流を継続して行い情報提供をするとともに、ドイツ研修旅行の計画・実施を行う。	⑱ 本年度はドイツ研修旅行団がドイツ姉妹校を訪問し交流する予定で活発に交流が行なっている。	総合評価 (評定) B (所見) 芸術科・各課の発信については定期的に行える体制が出来ている。今後は実施から掲載までの期間を短く出来るよう改善を図る。			
	⑲ 外国の方や海外経験の豊富な日本人を招き講演会を実施することで、生徒の国際理解を深める。	⑲ 県国際交流協会を通してカナダから来日している徳島在住の方から講演をいただき、日本との違いやカナダのことを知ることで国際理解を深めることできた。					
	⑳ ドイツ研修旅行の事前準備・実施を円滑に行う。	⑳ 昨年度からの企画を実現し、本年度はドイツ研修旅行が実施可能となり、担当者を中心に円滑な事前準備を行えた。					
⑤文化芸術活動における地域への積極的な創造発信	情報視聴覚課	評価指標	① 各行事の結果等についてホームページで発信できたか。	① 芸術科等の発信については昨年度同様であるが、学校全体の行事の発信数が減少している。	総合評価 (評定) B (所見) 芸術科・各課の発信については定期的に行える体制が出来ている。今後は実施から掲載までの期間を短く出来るよう改善を図る。	○各取り組みの結果等の配信のほかにも生徒の様子がわかる記事を増やし、保護者や地域への情報発信に努める。	
		活動計画	① 各取り組みをホームページを通して頻度多く発信する。	① それぞれの行事については、その都度写真等を交え迅速に発信できた。			

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	主担当	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見
地域社会への情報発信を強化する	⑤文化芸術活動における地域への積極的な創造発信	芸術科	評価指標	評価指標の達成度	総合評価 (評定) B (所見) 伝統音楽の受検希望者は少ない。今後も機会を捉えて、和楽器など伝統音楽継承につなげていく必要がある。
			② 音楽科の生徒及び普通科音楽選択生に、伝統音楽や和楽器の授業を実施できたか。書道・日本画など伝統文化の継承者を育てることができたか。	② 伝統音楽については計画通りに実施できた。美術・書道においては伝統文化の継承に努めた。	
			③ 音楽科の和楽器専攻の受検者や箏曲・美術・書道に興味を持つ生徒が増えたか。	③ 音楽科の和楽器専攻については希望者はいなかった。美術・書道の専攻生徒は伝統文化に興味を持ち、素晴らしい作品を制作した。	
		芸術科	活動計画	評価指標の達成度	
			② 1. 2年普通科・芸術科の授業に、和楽器の演習を年間4時間以上取り入れる。日本の伝統芸術に興味・関心を持たせ、継承者を育てる。作品等を展示し全校生徒にアピールする。	② 1・2学年とも「箏曲の演習」を4時間実施した。また、美術・書道作品は常時校内に展示し、全校生徒は興味や関心を持つことができていた。	
			③ 和楽器専攻生の募集や箏曲部の活動を積極的に進める。日本の伝統芸能や書道・日本画など日本文化を継承する人材を育成する。	③ 和楽器の専攻生徒はいなかったが、箏曲の授業を契機に箏曲部での活動へとつながった。書道・日本画など、優秀な生徒が育っている。	
				特になし	○日本の伝統音楽や伝統文化は、これから国際社会の中で生きていく生徒達にとって、とても大切な自国の文化である。伝統文化に芸術科の果たす役割は大きい。今後も真の国際理解のために、芸術で日本文化を学び、発信する力を身につけられるよう努力しなければならない。

重点課題		重点目標	主担当	自己評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策	
				評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見		
地域社会への情報発信を強化する	⑥地域社会との連携と開かれた学校づくりの推進	総務課	評価指標	① P T A活動で保護者と生徒、教職員が協力して校外清掃奉仕活動や、校内美化活動ができたか。	① P T A役員が参加して、校外清掃奉仕活動ができた。	総合評価 (評定) A (評定) P T A・同窓会ともに会長を中心に、教職員や地域とも連携して、校内・校外の諸活動に積極的に取り組んでいた。それぞれ役員と一般会員が協力し、教職員と一体となって活動できている。	保護者が協力して、体育祭の時に麦茶を提供するなど、名西高校ならではのすばらしい伝統が引き継がれており、今後もぜひ継承していつてもらいたい。	○地域社会に開かれ、連携していくために、P T A・同窓会の活動がその土台となれるよう、より積極的にさまざまな行事や事業に取り組んでいきたい。P T A通信やH Pを活用し、活動状況を地域に向けて発信していきたい。
			② 文化祭でバザー、模擬店の出店や、体育祭では麦茶の提供ができたか。	② 多数のP T A会員や役員が協力して、名高祭の各行事に参加できた。				
			③ 高P連や生指協関連の大会・研修への参加を含め、P T A研修を実施できたか。	③ 校内外、県内外の高P連・生指協関連など各種研修に役員を中心として多数参加し、様々な問題について理解を深めることができた。				
			④ 「P T A通信」を発行し、会員に報告・広報できたか。	④ P T A通信第14号を卒業式に合わせ発行できた。				
			⑤ 年1回藤花同窓会が開催できたか。	⑤ 多くの役員・会員の協力により、9月13日に総会・懇親会を開催できた。				
			⑥ 90周年記念キャラクター「くおんちゃん」を同窓会のシンボルとして広報できたか。	⑥ 新たな「くおんちゃん」ファイルを作成できた。				
			⑦ 卒業生の同窓会入会式が開催できたか。	⑦ 卒業式前日に同窓会入会式を開催できた。				
			活動計画	① P T A役員の方々により、石井駅周辺や通学路の清掃奉仕活動を実施する。校内正門・玄関周辺の植栽(プランター)を整備する。	① P T A役員が参加して、校外清掃奉仕活動を2学期末に実施した。			
		② P T Aによるバザーや模擬店を文化祭で開催、また体育祭においては麦茶の提供を行う。	② 文化祭では、多数の会員・役員が協力して、焼きそばの調理・販売の模擬店を実施できた。体育祭では熱中症対策として、競技中に生徒や教職員に麦茶やドリンクを提供した。					
		③ 県高P連総会や研修会、生指協連絡協議会等に参加し研修する。また、大学訪問を実施し、進路について研修を深める。	③ 県高P連の理事会・総会や各種研修会、生指協連絡協議会・総会等に役員を中心として参加した。高P連中四国大会岡山大会に役員3名が参加した。7月には大学訪問(京都市)を実施し、進路について研修を深めた。					
		④ 卒業式に合わせて「P T A通信」を発行し、1年間のP T A活動を総括し、会員に報告・広報をする。	④ 「P T A通信」第14号を発行し、全会員に1年間の活動について報告した。					
		⑤ 第36回藤花同窓会を開催する。	⑤ 9月13日(日)に藤花同窓会総会を開催し、あわせて第36回卒業生同窓会と合同で参加者111名で懇親会を開催した。7月には関西支部総会が実施された。6月、1月に役員会を実施した。					
		⑥ 「くおんちゃん」クリアファイルを作成し、中学生対象の説明会などで広く配布し、名西高校同窓会のシンボルとして広報できたか。	⑥ 新たなデザインで「くおんちゃん」ファイルを作成し、同窓会や中学生説明会などで広く配布した。					
		⑦ 卒業式前日に同窓会入会式を実施し、委嘱状を同窓会役員から各クラス理事に手渡し、同窓会会員となる自覚を促す。	⑦ 卒業式前日に同窓会入会式を開催し、入会記念品として卒業証書ホルダーを授与した。各クラスで選出された理事に委嘱状を同窓会役員から手渡し、入会の決意と自覚を促した。					

重点課題		重点目標		自己評価		学校関係者評価	学校関係者の意見	次年度への課題と今後の改善方策			
				評価指標と活動計画		評価					
地域社会への情報発信を強化する	⑥地域社会との連携と開かれた学校づくりの推進	教務課	評価指標	⑤ 「入学案内」の構成や情報内容が改良，更新されたか。	評価指標の達成度	⑤ 入学案内は，本年度はリーディングハイスクールの指定もあり，デザイン事務所へ委託した。ページ数も大幅に増やし，卒業生の声，在校生の声も取り入れた内容となった。好評であった。	総合評価 (評定) A (所見) 多くの先生方からご意見をいただき，ポスター作成や体験入学の内容などに対し，相談しながらすすめていくことができた。次年度も，積極的に広報活動を実践していきたい。また，HPの有効活動をいっそう進めていく必要を感じた。	特になし	○体験入学の広報活動について，取り組みを早める。 ○入学案内についてもいっそうの充実をはかる。 ○評価アンケートを見直し，中学生や保護者や中学校教員の先生方の意見をいっそう取り入れるように努める。		
			⑥ 体験入学の参加生徒や保護者に，本校教育の内容やその説明がよく理解できたと評価されたか。	⑥ 本年度の体験入学も，昨年同様に生徒による説明を多くした。体育館の暑さ対策として，氷柱を導入した。美術科教員による氷彫刻も好評であった。体験入部も行い，好評であった。							
		教務課	活動計画	⑤ 本校教育の内容をよく理解し，わかりやすい特色にまとめ上げ，説明会等の資料にも活用する。	活動計画の実施状況	⑤ パワーポイントを使用したり，本校の年間の取り組みをスライドショーにして視覚的に紹介するなどした。また，説明会資料もできる限りカラー化してわかりやすい資料提供を実践した。					
			⑥ 体験入学，学校説明会，HP等を通じて，本校教育の特色など本校に関する情報を提供し，中学生に進路選択に活用してもらおう。体験入学等のポスターを作成し多くの参加者を募る。理解状況は，体験入学時にはアンケート等も実施して確認する。	⑥ 体験学習においては，運動部の体験入部を実施し，一層の本校理解を推進した。また，芸術科学校説明会の会場を1カ所増やし（徳島市内会場）生徒募集を図った。その結果，説明会参加者も増加した。体験入学や芸術科説明会ではポスターを作成し，公共機関や地元スーパーなどにも協力をいただき広報に努めた。アンケートもそれぞれの機会に実施した。HPについても様々な機会を通じて本校諸活動の情報を公開した。							
		情報視聴覚課	評価指標	⑦ 学校での様々な取組みをホームページで紹介できたか。	評価指標の達成度	⑦ 主立った行事に関しては紹介できている。学年単位の行事等も一部掲載することが出来た。				総合評価 (評定) B (所見) 行事の掲載については保護者も閲覧しており，行事から掲載までの期間を短くする必要性を感じた。	○行事をwebに掲載するまでの期間が空きすぎていると保護者アンケートにも記載があったので，2日以内の掲載に努める。
			活動計画	⑦ 学校行事や部活動等の様々な取組みをホームページで頻度多く掲載する。月に10回以上の更新を行う。	活動計画の実施状況	⑦ 芸術科や部活動等については頻繁に更新されている。ネットコモンズによる情報発信が出来る教員も増えていることなど発信するための環境も整ってきている。					
	芸術科	評価指標	⑧ 校外での展覧会・音楽会等の広報活動を行い，多くの観客を動員することができたか。	評価指標の達成度	⑧ これまでの校外での展覧会・音楽会等に加えリーディングハイスクールによる様々な取り組みを行い，多くの観客を動員することができた。	総合評価 (評定) B (所見) リーディングハイスクールによる取り組みが加わり，県内全域において芸術科の活動を発信することができた1年となった。	○多くの人に見ていただき，参加していただくための工夫をし，さらに多くの観客を動員することができるよう努めたい。				
		⑨ 県内唯一の芸術科を有する学校として，地域社会と連携し芸術・文化の発信に寄与する事ができたか。	⑨ ボランティアフェスティバルをはじめとしたさまざまな活動によって，芸術科を有する学校として，地域社会と連携し芸術・文化の発信に寄与する事ができた。								
	芸術科	活動計画	⑧ 地域社会での文化祭，展覧会，文化行事などに積極的に参加する。年間3回以上行う。	活動計画の実施状況	⑧ 地域社会での文化祭，展覧会，文化行事などに積極的に参加することができた。巡回展や校外での展覧会・演奏会を年間3回以上行うことができた。						
		⑨ 地域社会と連携し，校内・校外で合同展覧会・合同演奏会を行い生徒の作品や演奏を披露するとともに，地域社会での芸術活動の一翼を担う。	⑨ 地域社会と連携し，校内・校外で合同展覧会・合同演奏会を行い生徒の作品や演奏を披露するとともに，地域社会での芸術活動の一翼を担うことができた。								

重点課題	重点目標	主担当	自己評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策
			評価指標と活動計画	評価		
地域社会への情報発信を強化する	⑥地域社会との連携と開かれた学校づくりの推進	生徒指導課	評価指標 ⑩ 「名高パトロール隊」を編成し、地域社会や警察と連携して地域の安全や美化活動に貢献できたか。	評価指標の達成度 ⑩ 全ての運動部員と生徒会役員が「名高パトロール隊」に所属し活動した。石井警察署との協力において様々な活動に積極的に参加し、地域の安全や美化活動に貢献した。	総合評価 (評定) A (所見) 毎月20日に運動部員がキャップをかぶり、学校周辺のランニングを行いながら名高パトロールを実施し、地域の安全に貢献した。生徒に社会の一員である自覚を育てるとともに、地元から信頼される学校となるためにも活動を継続・発展させていきたい。	特になし ○県内でも名西高校独自の取組ともいえる名高パトロール隊の活動をさらに充実させ、地域から信頼される学校にしていきたい。
		生徒指導課 家庭科	⑪ 交通安全キャンペーンで学校家庭クラブがマスコットを製作し、自主的・積極的に地域での活動に参加できたか。	⑪ 交通マナーアップクラブと家庭クラブのメンバー、生徒会役員約30名が家庭クラブメンバーが作成したマスコット(無事カエル)をドライバーに配布する街頭キャンペーンに意欲的に参加した。		
		生徒指導課	活動計画 ⑩ 運動部員を中心とした「名高パトロール隊」を編成し、地域社会や警察と連携して、清掃活動や防犯キャンペーンを実施する。	活動計画の実施状況 ⑩ 石井警察署や青少年育成センターと連携を図りながら、部活動時にパトロールするなど、清掃活動や防犯キャンペーンを実施した。		
		生徒指導課 家庭科	⑪ 交通安全キャンペーンで学校家庭クラブが製作した「無事カエル」のマスコットを配布する。	⑪ 石井警察署や交通安全協会と連携を図りながら、秋の交通安全運動キャンペーンに参加し、家庭クラブが手作りで作成した「無事カエル」のマスコット人形を交通安全啓発のパンフレットと一緒に配布した。		
生徒の自主的・自発的活動を支援する	⑦ホームルーム活動と部活動の活性化	特別活動課	評価指標 ① ホームルーム活動の時間数が確保できたか。ホームルーム活動の内容(18項目)が実施されたか。	評価指標の達成度 ① 学年やクラスで若干の差はあるものの、ほぼ年間の計画どおりに実施できた。	総合評価 (評定) A (所見) 担任や顧問の指導の下、ホームルーム活動・部活動とも活動は活発であり、自主的・意欲的な活動が増えている。	○他教科や藤波との関連を図る。 ○各部活動の目標を明確にし、計画的に取り組む。
			② 活動者数(部員数)は増えたか。大会参加や発表の機会は増えたか。大会等での成績は向上したか。	② 全体の活動者数は昨年と比べ微増しており、活動も活発になり成績も向上しつつある。		
		特別活動課	活動計画 ① 生徒による自主的、実践的な活動が助長されるようなホームルーム活動を行う。	活動計画の実施状況 ① 生徒による自主的・自発的な活動を目指しホームルーム活動を実施しており、自主的な活動も増えつつある。		
			② 生徒自らが意欲的に活動できる充実した部活動を行う。	② 多くの部活動で生徒自らが意欲的に取り組んでおり、活動が活発になってきた。		

重点課題	重点目標	主担当	自己評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策
			評価指標と活動計画	評価		
環境美化と防災意識を高める	⑧防災・安全教育の徹底と環境教育の推進	環境教育課	評価指標	評価指標の達成度	総合評価 (評定) B (所見) 今年度の地震を想定した避難訓練では、体育館への避難になったが的確に避難することができた。さらに東南海地震を意識して日頃より真剣に避難訓練に取り組むことが必要である。	学校が地域の避難場所になっていることも踏まえて、対策を考えておく必要がある。 何よりも生徒の安全確保が第一だと思いが、それだけに、地域の方々が避難してきたときに、生徒への対応に支障が出ないように、準備を進めておくことが大切だ。
			① 避難訓練を年2回実施したか。	① 地震(9月)と火災(12月)を想定した避難訓練を実施した。		
			② 外部機関と連携した防災教育を実施したか。	② 石井消防署の方々と連携し避難訓練を実施した。		
			③ 防災クラブの活動が十分に行えたか。	③ 初めて防災クラブを結成し防災活動に積極的に活動することができた。		
			活動計画	活動計画の実施状況		
			① 緊急時に適切な行動がとれるようにするため、地震・火災を想定した避難訓練を実施する。	① 計画通り実施することができた。		
	② 安全確保に対する意識を高めるため、防災教育を充実させる。	② 12月の防災避難訓練では、消防署の方の協力による講演が行われ防災意識を高めることができた。				
	③ 防災クラブの活動として、1・2学期末に防災活動を積極的に行う。	③ 防災クラブの活動として、炊き出し体験は全学年で飛散防止フィルムの貼付は1・2年生で活動できた。				
	環境教育課	評価指標	評価指標の達成度	総合評価 (評定) B (所見) ゴミ分別のチェック表の提出率をさらに上げる。環境整備委員だけでなく、全体の生徒の環境美化や奉仕の精神も養われつつある。	○緊急時に適切な行動がとれるようマニュアルを活用し、今後とも検証していく必要がある。 ○本校が地域の避難場所であるという意識を持つ必要がある。	
	④ ゴミの分別をすることがECOにつながることを自覚させることができたか。	④ ゴミの分別はほぼできていた。				
	⑤ 環境を整え学習効果をあげるとともに、美化を推進することができたか。	⑤ 教員、生徒ともに毎日の清掃や大掃除を積極的に行い、環境美化に取り組んだ。				
	⑥ 地域の美化に貢献する気持ちを育て、奉仕の精神を養うことができたか。	⑥ 環境整備委員、生徒会役員、保護者の方と協力し校外の清掃奉仕活動を積極的に行った。				
活動計画	活動計画の実施状況					
④ ゴミ分別チェック表を毎月提出する。	④ ゴミの分別チェック表の提出率は70%であった。					
⑤ 月に1回大掃除を実施する。	⑤ 毎月1回は大掃除を実施した。ワックスがけは7月と1月に実施することができた。					
⑥ 1, 2学期末に校外奉仕活動を積極的に行う。	⑥ 予定通り、12月に実施することができた。					
				○チェック表の未提出のクラスをなくし、意識を高める。また、ゴミの分別や節電・節水がECOにつながることを認識させる。		